

第275回教育研究評議会議事要録

1. 日 時 平成29年1月31日（火） 13:30～16:45
2. 場 所 事務局 大会議室
3. 出席者 中井学長、中田理事・副学長、三浦理事・副学長、小沢理事・副学長、
若井理事・事務局長、真田副学長、千葉副学長
千葉人間発達文化学類長、朝賀評議員、谷評議員
久我行政政策学類長、田村評議員、鈴木評議員
阿部経済経営学類長、伊藤評議員、佐野評議員
二見共生システム理工学類長、山口評議員
難波環境放射能研究所長、初澤うつくしまふくしま未来支援センター長
【オブザーバー】上井監事、橋本監事
4. 欠席者 佐藤評議員

5. 議事

【確認事項】

- ・第274回教育研究評議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

- (1) 食農学類（仮称）創設に関する各学類からの教員・学生抛出数について（戻り報告）

各学類長から、第274回教育研究評議会（1月10日開催）において審議され、各学類教員会議に意見聴取していた標記について、各学類教員会議における戻り報告があった。

千葉人間発達文化学類長から、①教員抛出を検討する際の基準として各学類の志願倍率や大学院定員充足率などの多面的な指標を用いることの必要性、②理工学類教員抛出数の補整に対するより詳細な説明の要求、③教員・学生抛出数にかかる全学的な説明の必要性等の意見が出されたことについて報告があった。

久我行政政策学類長から、①人件費削減と教員数の削減を連動して検討することへの懸念、②理工学類教員抛出数の補整に対するより詳細な説明の要求、③教員数抛出後の人文社会学群における現代教養コース運営への不安感、現代教養コースの積極的見直しによる負担軽減の必要性、④今後予定されている適切な組織・職員配置の検討内容への質問等の意見が出されたことについて報告があった。

阿部経済経営学類長から、①基盤教育の各学類の担当などが不透明なため抛出後の教員定員数の妥当性が判断できないこと、また、今後決定される基盤教育の担当

授業数は公平な基準で行うべきであること、②今後の非常勤講師の利用の在り方、③学生抛出後の標準教員数の提示、④附属学校園の収支の提示要望、⑤震災後新設された組織を含めた組織の見直し・縮小の検討の必要性、⑥予算などの削減は一律ではなく個別具体的に行うべきであること等の意見が出されたことについて報告があった。

二見共生システム理工学類長から、①学類以外のセンター等所属の教員削減の可能性、②理工系人材養成強化の情勢の中で教員・学生共に削減することへの危惧、③標準教員数を明示した資料をつけてほしいこと、④既存組織からの増減ではなく大学の将来像を示し、共有して議論すべきであること、⑤教育・研究費の削減による人材育成への不安感、⑥外部資金調達の不安定さ、⑦ポイント制度の早急な具体化の必要性、食農学類以外の学類間での教員の移動の可能性等の意見が出されたことについて報告があった。

以上の戻り報告を受け、中田理事・副学長から、大きく抛出数に関する意見、財政に関する意見、抛出が教育・研究に与える影響等に関する意見があることを認識したうえで、それぞれについて考え方を説明したいとの発言があった。主な内容として、①従来の人件費削減と抛出数の関係性、②理工学類と食農学類の連携の可能性、理工学類の学生・教員数を削減することへの対外的な説明、③抛出数の基準の考え方、特に大規模な移動・削減を行うことから、いくつかの指標によって比較するのではなく、様々な要素があることを認識した上で全学的な協力をお願いしたいこと、④センター等の検討は全学教育改革WGでの議論をもとに今後行うこと、⑤附属学校園等の財政は学類などとは財務構造が異なるため、同一の財政シミュレーションで比較ができないこと、⑥外部資金獲得に向けた取り組みとして、寄附金の仕組み作りや運営費交付金の効率的運用を目指していることなどの説明があった。

質疑応答では、①より長期的な財政シミュレーションの検討やその検討材料となる様々な部局の財政状況の把握や情報公開の可能性、②今後の食農学類とのカリキュラム連携の検討体制、③ポイント制度導入の検討や非常勤講師の活用方法の見直し、教育研究院での今後の議論などについて意見が出された。

審議の結果、次回教育研究評議会（2月7日開催予定）へ継続審議とし、今回の意見聴取の審議内容も踏まえ、改めて役員会としての考え方等を文書で示すこととした。また、各学類教員会議へ、教員控室に資料提示の上、本日の質疑内容を報告することとした。

（2）学内諸規則等の改正について

中田理事・副学長から、資料2に基づき、教職大学院設置、除籍者の再入学の取扱いの変更及び設置基準の規定と整合を図ることを理由として「福島大学学則及び

大学院学則」を改正すること、及び農学系教育研究組織設置準備室における客員教授等の選考に対応することを理由として「福島大学客員教授等選考規則」を改正することについて提案があった。

質疑の結果、学則及び大学院学則は改正内容を一部再確認することとしたため、次回教育研究評議会（2月7日開催予定）へ継続審議とすることとした。

また、「福島大学客員教授等選考規則」の改正については、審議の結果、原案のとおり承認されたため、各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

【報告事項】

（1）中井プラン 2021 改訂版について

中井学長から、資料3に基づき、中井プラン 2021 の改訂版を作成したことについて報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（2）役員給与規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料4に基づき、第273回教育研究評議会（12月27日開催）で報告した役員給与規則の一部改正について、適用日に関する附則を追加修正のうえ、改正することの報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（3）就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料5に基づき、第273回教育研究評議会（12月27日開催）で報告した就業規則の一部改正（①国家公務員給与法等改正に準拠した給与改定、②育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴う改正）について、過半数代表者からの意見書をふまえ、役員会で最終決定した旨の報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（4）賃金控除に関する協定書（金谷川事業場・附属学校園）の締結について

中田理事・副学長から、資料6に基づき、2月1日より有効となる下記の内容の賃金控除に関する協定書を締結した旨の報告があった。

- ①「賃金控除に関する協定書（金谷川事業場）」：「春秋倶楽部会費」の削除、「福島大学しのぶ育英奨学金基金」及び「福島大学農学支援基金」の追加
- ②「〃（附属小学校）」：「福島大学しのぶ育英奨学金基金」及び「福島大学農学支援基金」の追加

③「〃（附属中学校）」：「福島大学しのぶ育英奨学金基金」及び「福島大学農学支援基金」の追加

④「〃（附属特別支援学校）」：「福島大学しのぶ育英奨学金基金」及び「福島大学農学支援基金」の追加

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(5) 地域創造支援センター専任教員の採用について

小沢理事・副学長から、資料7に基づき、地域創造支援センター教員の後任人事について、平成28年度第6回地域創造支援センター運営会議（平成29年1月10日開催）において、候補者1名を地域創造支援センター教授として資格適格と判定したことの報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(6) その他

・平成28年度研究・地域連携成果報告会について

小沢理事・副学長から、資料8に基づき、当初開催予定日の前日に発生した地震の影響からやむを得ず開催を延期していた「研究・地域連携成果報告会」について、3月22日（水）に代替開催することを決定したことの報告があり、併せて、改めて教育研究評議会メンバーへの参加要請並びに教員会議でのアナウンス依頼があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

・COC+公開シンポジウム「地域と共に若者を育てる！」について

小沢理事・副学長から、資料9に基づき、COC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）の公開シンポジウムを2月17日にコラッセふくしまにて開催することの報告があり、併せて教員会議でのアナウンス依頼があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。